

南陽市都市マスタープラン案及び南陽市立地適正化計画案に係るパブリックコメントの結果について

1 募集期間

令和3年2月19日（金）～令和3年3月5日（金）

2 意見の提出者数

1名

3 提出方法

持参

4 意見の内容とその意見に対する回答

ご意見	市の考え方	修正の有無
<p>*具体的な目標数値データの極めて少ない計画で、検証困難であり評価を受ける事を前提としない「思い表明書」に等しい。PDCAサイクルが、破綻している。計画といえない。</p> <p>*5つの基本方針となった背景が項目別にソフトな文言で縷々記載されているが、現状と将来推計の数値データ無しで方針としたとは、説得力に欠けるものと思います。</p> <p>*都市計画立案で大きな制約となるのは、記載の通り財政余力であり社会インフラと箱物と称される公共施設の更新・補修・撤去費用などである。平成30年(2018年)策定済みの南陽市公共施設等総合管理計画(アクションプラン)では、公共施設とインフラ資産の推計総額は1088億(年間整備額27.2億)になり、直近5年平均の実施額は22.5億で実に年間4.7億円の未整備施設が積みあがっていると指摘している。さすがに対応として、公共施設の総量(延床面積)を2046年まで20%削減を目標としている。残念ながら、この削減目標達成で、どの程度不足が緩和されるかの推計額も記載されていない。</p> <p>*計画策定について具体的なデータを示して、広くプランの実現性と優先を計り、選択と集中をへて具体的な数値の目安とする計画を導くべきだと考える。</p> <p>*この度の計画で交流プラザ蔵楽の位置付けは、緑の方針図(P50)では熊野大社や夕鶴の里が歴史資源にリストアップされたものの言及なく、将来都市構造図(P36)でも交流プラザと命名されたものの文化・観光拠点とはなっていない。</p> <p>第4次南陽市総合計画(H13年)、南陽市土地利用調整基本計画(H15年)、南陽市都市計画マスタープラン(H15年)では宮内地区を「歴史と文化にふれあえるまち」と定め、6億円を投じて宮内地区の歴史を伝え地域振興の核となるべく倉庫群を交流プラザ「蔵楽」として保存再生整備された施設にも関わらずである。現在、多くの都市では地域の記憶を色濃く残す街区や建物をリノベーションして活用しようとする動きが、加速している。僅かの痕跡しか認められない建築物さえも対象となる。最新の建築手法で新設の方が、使い勝手も良く安上がりだとわかっていてもである。地域のオリジンを</p>	<p>都市計画マスタープランは、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、都市計画の大きな方向性を示すとともに、都市づくりの理念やビジョンを市民の皆様と共有する計画であります。</p> <p>計画案の策定作業では、都市構造の現状や将来推計を含めた分析等も行い、都市づくりの課題を整理しております。従いまして、計画書には、その主要な分析結果等の一部を抜粋して掲載いたしております。</p> <p>立地適正化計画では、主な施策と具現化に向けた目標年次(短期5年、中期10年、長期20年)を、また主な施策に係る評価指標(現状からの短期目標値(令和7年度)、長期目標値(令和22年度))を示しております。</p> <p>なお、立地適正化計画は、概ね5年ごとに進捗状況を評価することが望ましいとされておりますので、計画策定後は、PDCAサイクルにより、令和7年度までの短期目標について、達成状況を評価する予定としております。</p> <p>また、個別の公共施設やその費用及び市公共施設等総合管理計画に係るご意見等については、適宜、担当部署が中心とな</p>	<p>無</p>

残す事が、次世代へ連綿と地域愛を育む原点と考えるから
と思う。当市には大正から昭和初期にまちを支えた貴重な
近代資産は、市内には夕鶴の里で整備された蔵と蔵楽にし
かない。2003年H15年から供用されて17年。軽微な補修修
繕されても、未整備(外観保存)で放置してきた経緯につい
ては知る良しもないが、この度のマスタープランでもリス
トアップ気配もない蔵楽は、特に未整備の1号館は風雨に
さらされ、末路は解体撤去となる可能性が高い。一方では、
蔵楽敷地に公民館新設の計画もささやかれている。現有資
産の活用もなく、補助金で新設が現時点での自主財源保全
の観点からもベストチョイスかもしれないが、本当にベス
トだろうか。アクションプランに指摘の通り、公共施設の総
量削減は最重要施策のはず。蔵楽敷地への新設と現公民館
解体で得られる削減総量は、多くないはずだ。50%助成を受
けて2.5億円の初期投資額に加え、現蔵楽施設には手もつ
けず、その場しのぎの保全の挙句に多額の自主財源で1号
館は解体整地の道を辿るよりは、耐震補強施工と斬新なり
ノベで1号館の現床面積を確保して新增設を極力最小限度
に止めるほうが結果的に投資額と経年運用コストの安上が
りになる。同時に蔵楽施設の活用を前提として必要最小限
の増設に止まれば、差引き公共施設削減に寄与度合いが高
いと考えます。

この度のマスタープランで個別の施設対策まで盛り込め
ないとしても、今後の公共施設新增設や保全管理の基本的
方針を夫々のコスト推計などの数値データをベースに根拠
を示すべきと考えます。やはり言葉によれば、エビデンスに
基づく方針決定プロセスを提示すること。市民に決定経緯
をわかりやすく提示する事は、正にマスタープランにある
「市民との協働のまちづくり」に沿うと考えます。是非とも
20年を見通した計画に、切に追記されることを希望する。
*ハイジアパークの帰趨も注目されるが、ハイジアのよう
な民間競業にある公的施設では定期的且つ適切な修繕や時
流に遅れない顧客目線での改修タイムリーに重ねざるを得
ないという認識が少なかったように考えます。故に、時流に
対応する計画が立案される事もなく、その場しのぎに終始
してきた結果と考えます。今後は、民間会計で常識の減価償
却手法で施設保全管理に目配り維持管理が必須、施設保全
には単年度会計を超えて長期的な計画とリンクして運営が
必要。正に常に必要資金推計に基づく長期計画が原則だと
考えます。将来発生するだろう費用についても反映される
事を希求します。

り検討してまいりますこと
にご理解くださるようお願い
いたします。